

事故を防止し、緊急事態への対応やセキュリティ強化に関する事項を定め、社員の安全の確保と安定な操業を維持することを目的として保安防災活動を行なっています。こうした活動により事故ゼロをめざします。

## 社会的課題と花王が提供する価値

### 認識している社会的課題

化学プラントでの事故や、自然災害が多く発生している昨今、大規模化学プラントを有する企業に対する安全操業への要求はますます高まっています。

### 花王が提供する価値

大規模化学プラントを有する企業として、事業場の地域住民や従業員へ安全な操業で事故のない安心して暮らせる地域社会を提供します。

### 「2030年のありたい姿」の実現に関わるリスク

工場周辺地域に影響する大きな事故の発生や、自然災害による安定操業の停止、それらによる社会からの信頼損失をリスクととらえています。

### 「2030年のありたい姿」の実現に関わる機会

地域や従業員の安全の確保に向け、徹底して保安防災の取り組みを行なうことは、社会からの信頼の獲得とブランドイメージの向上につながります。

### 貢献するSDGs



### 方針

花王は「保安防災」の活動方針を、花王レスポンシブル・ケア(RC)方針に「火災、爆発および化学物質漏えいを防止し、安全で安定な操業を維持するとともに、自然災害やセキュリティ強化に配慮して、設備対応と定期的訓練を行ない、緊急時に備える」と明確に定めています。この方針に沿って事故の防止に努めています。



→花王レスポンシブル・ケア方針

[www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/responsible-care-policy.pdf](http://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/responsible-care-policy.pdf)

## 教育と浸透

業務に関する事故の発生や拡大を防ぐため、過去事例・最新技術や知識など保安防災に関する教育や対応訓練の計画を立て、技術の伝承や保安力の強化を行なうとともに、自然災害や火災などを想定した訓練を計画・実施することで、社員の防災意識向上に努めています。

## ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

事業場でともに働く協力会社と協働で安全や防災に関する行事を行なうことで、さらなる防災意識の向上を図り、より安全で安心な企業となるよう努めています。

## 体制

日常の保安防災活動は、RC推進体制に基づいて行なっています。事故・災害が発生した場合には、グローバルな緊急事態連絡網を通じて発生を把握するしくみを構築しています。さらに、事故・災害が事業活動に重大な支障を及ぼす予想される時には、社長を本部長とする緊急事態対策組織を即時に立ち上げ、人命を第一とした初動対応をはじめ、事業継続計画(BCP)<sup>※</sup>に沿った対応などをグループ一丸となって行ないます。

※ 事業継続計画(BCP)

さまざまな事象とその要因により事業活動の中断や停止が引き起こされる場合を想定し、その状況に応じてどの業務・機能をどのような方法で維持・継続させるかを事前に決めておき、会社としての重要業務を継続させるための計画。



→レスポンスブル・ケア活動/体制

[www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sus-db-2020-all.pdf#page=18](http://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sus-db-2020-all.pdf#page=18)

## 中長期目標と実績

### 中長期目標

場内火災、爆発事故、漏えい事故、物流漏えいゼロを目標に活動しています。

### 中長期目標の達成により期待できること

#### 事業インパクト

すべての事業場が安全に操業することで、事業活動が正

常に行なわれ、不要な経費発生を抑え総合的なコストの低減、収益拡大につながります。

#### 社会的インパクト

すべての事業場が安全に操業することで、事業活動が正常に行なわれ、安定した商品供給ができます。また、製品価格の安定化に貢献できます。

## 2019年の実績

2019年、花王は「安全で安定な操業の維持」のため、保安上の事故撲滅に向けて変更管理<sup>※</sup>の徹底、化学設備のセーフティアセスメント、定期点検、パトロール強化を実施しました。また、防災活動として防災訓練の充実とセキュリティ強化を目標に掲げ、各部門においてさらに詳細な実行内容と計画を策定して活動しました。2019年は小規模な漏えい(場

内)と小火災の発生がありましたが、爆発事故・物流漏えいはありませんでした。2020年も引き続き場内火災、爆発事故、漏えい事故、物流漏えい事故ゼロを目標に活動します。

※ 変更管理:変更に伴うリスクを事前に想定して対策を講じ、障害や不具合、事故などを防止するマネジメント活動のこと。

### 目標と実績

項目	対象	指標	2018年	2019年		2020年
			実績	目標	実績	目標
事故	花王グループ	火災・爆発・漏えいなど(件)	6	ゼロ	5	ゼロ
		物流漏えい <sup>※</sup> (件)	0	ゼロ	0	ゼロ

※ 物流漏えい  
製品等の輸送中における漏えい事故

### 2019年の事故の概要

事故種類	漏えい(場内):4件、小火災:1件	
事故概要	漏えい	・製品(潤滑油)のタンク移送時において、ガスケット劣化により、フィルター上部のフランジ部より漏えい ・老朽化したクランプ(締め具)が破損し、フィルター上部のシール部より製品(食器用洗剤)が漏えい ・台風の暴風で飛ばされた綿鋼板製ステップが400V変圧器を破損、絶縁オイルが漏えい ・作業手順を守らず、ストレーナー上蓋のボルトを緩めたため、中間品が漏えい
	火災	・制御盤で、電源を切らずに工事し、短絡発生、過電流で配線が発火
今後の対策	部品交換周期の見直し、部品の強化、工事作業の再教育を行ないます。	

## 具体的な取り組み

### 大規模災害に備えた緊急事態対応訓練

花王では、各事業場単位での消防訓練・避難訓練以外に、大規模災害に備えてグループ全体で訓練を実施しています。

#### 安否確認訓練

2019年、日本花王グループは自然災害発生に備えウェブ安否確認システムを導入し、全社員を対象にした入力訓練を3月と9月の2回実施しました。実際の地震を想定し、1日目(24時間)を本人の入力訓練、次の日から確認担当者による入力のない社員の追跡確認の訓練を実施しました。今後も実際の災害発生時を想定した訓練を継続していきます。

2019年の安否確認システムの自然災害での使用は、以下の通りです。実際に安否確認システムを使用して、安否確認を行っており、重篤な人的被害はありませんでした。

#### 2019年の安否確認システムの使用状況

年月	災害名	結果
2019年1月	熊本地震	発生当日に100%安否を確認
2019年2月	北海道胆振中東部地震	発生当日に100%安否を確認
2019年6月	山形県沖地震	発生当日に100%安否を確認
2019年10月	台風19号	発生後2日間で100%安否を確認

#### 地震を想定した全社通報連絡訓練

花王は、首都圏での地震により本社が被災することを想定し、東日本・西日本それぞれに対策組織を整えています。2019年は、5月には日本海側の地震を想定した北陸・近畿・中国・九州エリアで現地と東日本の対策組織の訓練、9月には首都直下地震を想定した関東エリアで現地と西日本の対策組織の訓練を実施しました。

訓練想定は平日・昼間での在场時間とし、主要対策組織内部のIP無線による状況確認を行ない、被災拠点は人的被害および物的被害状況を、衛星携帯電話や社内災害用電子掲示板およびウェブサイトを使用した会議システム、新規導入した情報管理ポータルシステムを用いて対策組織の緊急事態対策本部まで迅速に伝達し、対策組織は情報に基づき必要な対応訓練を行ないました。

さらに、首都圏が被災想定9月の訓練では、社長を本部長とする緊急事態対策本部が、安全に活動できる拠点への移動訓練を行なったほか、生産に対するBCP対応チームも参加し全体の流れを訓練しました。

これまでの訓練で得た反省点をもとに、訓練内容の見直

しを随時行なっています。

#### 工場見学者を想定した避難訓練

日本で工場見学を実施している9工場では、見学時の地震発生を想定して防災ずきんを準備したほか、見学者を安全な場所へ迅速に誘導できるよう、社員を見学者に見たて、避難訓練を実施しています。今後も、見学時のさまざまなシーンを想定した訓練を年間の訓練計画に組み込んでいきます。



社員を見学者に見たて避難訓練を実施

## 防災の監査

2019年は、初めて監査を行なう花王(台湾)と花王(インドネシア)のカラワン工場、4回目となる花王インドネシア化学の工場で防災監査を実施しました。

監査内容は、防災業務の実施状況、実際の訓練視察での現地対策本部の設営・消火・救助隊等の活動状況と、協力会社従業員を含む従業員の避難状況およびメディアトレーニングの確認などです。花王インドネシア化学では、前回監査より安全防災レベルが向上したことを確認しました。

監査では、各工場側での指摘事項も提出されました。今後、対策案を作り対応していきます。

また、他の工場から監査員で監査を行なう取り組みも継続し、監査を通じ、各工場における安全防災レベルの向上を図っています。



花王(台湾)での避難訓練



花王(インドネシア)での救助と応急処置訓練



花王インドネシア化学での消火訓練

## 保安・防災の強化

SCM部門では、化学設備のリスクマネジメントの強化として潜在危険の対応、地震対策を引き続き推進しています。

2019年は化学設備のセーフティアセスメントにより潜在危険として抽出された粉じん爆発対策として、国内工場のコーン放電対応を行なったほか、自然発火対策として、海外工場への対応や低引火点物質火災防止対応も行ないました。海外の重合・発熱反応設備の熱的リスク評価手法の周知、設備再評価等を継続的に行ない、操業での安全に努めました。

地震対策では、建屋・設備の補強として、酒田工場の危険物などの屋外貯蔵槽の安全性評価、川崎工場の設備架台診断を行ない、自然災害での被害の最小化に努めています。

## 高圧ガス保安検査・監査・査察

和歌山工場では、高圧ガス保安法の認定保安検査実施者※の認定を受けており、2019年は、9月に保安管理部門の保安監査、11月に保安管理の長である社長のもと保安査察を実施し、保安活動について問題がないことを確認しました。2020年は経済産業省による認定保安検査実施者の5年更新審査の年に当たります。高圧ガス保安管理をより一層徹底していきます。

他事業場の高圧ガス設備は、外部の検査機関による保安検査を実施しています。保安監査・保安査察は自社で実施し、安全操業に努めています。



和歌山工場の高圧ガス保安検査

※ 認定保安検査実施者

高圧ガス保安法に基づき、特定施設が技術上の基準に適合しているか否かについて、運転を停止することなく自ら保安検査を行なうことができる者または運転を停止して自ら保安検査を行なうことができる者として、経済産業大臣が認定した者

## 保安防災教育プログラム

花王は、保安防災教育のためのさまざまなプログラムを構築しています。たとえば「モノづくり技術・技能伝承センター」では、生産現場を担う若い技術者が、さまざまなトラブルや危険な状況の疑似体験を通して必要な知識・技能を学び、技術の伝承に努めています。

また、国内外の次世代リーダーの育成に向け、和歌山工場内で8カ月にわたり、生産技術や“よきモノづくり”の精神を学ぶ「グローバルテクノスクール」を開校し、保安防災を含めたさまざまな研修を実施しています。

さらに、毎年、防災メッセージを提示し、地震防災マニュアルを発行することで、社員の防災意識の向上を図るとともに、過去の事故発生日を「安全の日」と定め過去の教訓を風化させないように努めています。

## 災害時の連携を考える全国フォーラム

特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)主催の「第4回災害時の連携を考える全国フォーラム」の分科会にパネラーとして登壇しました。このフォーラムは全国から災害発生時の被災者支援を行なう団体や機関が一堂に会し、専門的な知識やノウハウを共有し、連携・協働が具体的に進められることをめざしたものです。

分科会では、花王が行なっている被災地支援や地域連携やJVOADとの協働について紹介するとともに、分科会参加

者と情報共有を行ないました。



登壇した花王社員



パネルディスカッション